

ナレーションシート：藤林イザヤ  
～子どもの能力“最大化”コーチング～  
<通称：ふるポテチ、  
Full Potential Coaching>

【 予告 ～ ティザー（興味を引く） 】

<絵>

この物語は、  
英文学科を卒業したが  
英語が話せず、  
劣等感を抱えていた男の話だ。

彼は  
ある事がきっかけに、  
49歳で可能性を最大化させ、  
英語が話せるようになり、  
外国に会社まで作ってしまった  
ウソのような本当の話。

<絵>

特に、  
お子さまの将来、  
日本はもとより、  
世界を舞台に  
大活躍して欲しいと願う、  
お父さん、お母さんには、  
是非とも  
受け取って欲しい内容である。

以上までは、もう少しナレーション的に。  
以下は語りにする。

【 生い立ち ～ 幼少期の記憶 】

<絵>

東京オリンピックの年、  
1964年5月30日。  
京都市で、  
キリスト教の  
牧師の子として生まれた。

親父は、  
中学2年で肺結核になり、  
4年半闘病した。

その結果、  
中学も途中で終わり、  
高校は行けず。  
いわゆる学歴はない。  
その後、  
キリスト教に入信した時、  
不思議と肺結核が治り、  
牧師の道へ入った。  
35年に及ぶ牧師生活で、  
70名を超える牧師たちを生まだし、  
200名を超える信者たちを  
育て上げた。

母は、至って健康体。  
病弱な父を  
サポートして生きてきた。  
1960年に  
アメリカに女性ながら  
単身で留学。  
今でも英語を流暢に話す。  
父が海外へ  
宣教旅行に出向いた時には、  
日本語を英語に通訳する  
サポートもした人。

兄弟は、  
妹が二人と、弟一人。  
合計6人家族であった。

<絵>  
小学校時代は、  
かなりのいたずらっ子だった。  
ご近所の庭に、  
柿の実を盗みに入った時に見つかった。

「教会のボンか？」  
と怒鳴られた。

また、小学校の帰り道、  
脇にあったイチゴ畑に入って、  
たらふく食べた。  
でも、

バシた。

友だちが服に  
イチゴの赤い汁を垂らして、  
帰ったからだ。

イザヤが誘ったから食べた、  
と言ったことで、  
校長室に呼ばれて  
結果こっぴどく叱られたのは僕。  
後で、  
お百姓さんに謝りに行くことになった。

<絵>

小学校になって、1つ気付いた。  
家がキリスト教会だったおかげで、  
外国人がたくさんやって来た。  
その人達と、  
両親が英語で話をするのが  
格好良くて、  
憧れた。  
また、  
父が中学も行けてないのに、  
英語の説教を日本語に通訳していた。  
凄い！！

いつかは、  
自分もしゃべれるようになり、  
親父のように通訳したい、  
そういう願望が芽生えた。

その願望を刺激したことが1つある。

両親は、  
子どもに秘密の話をする時は、  
英語で話す。  
何とか、その内容を知りたい！！  
ということで、  
英語への憧れは益々強くなった。

ボクだって、  
秘密の話を英語でしてみたい！  
秘密の話を解読してやる！

もっと勉強して  
カッコ良く話すんだ！  
と希望をもったけれど  
願いとは  
真逆の状況になった……

<絵>  
親は、小学校時代から中学にかけて、  
近所の英語塾に通わせてくれた。  
その先生は東大出身。  
お子さんは  
二人とも東大に入れた方だったが、  
ボクはというと、  
今ひとつ、分からないまま過ごした。

英語は  
しゃべれるようになりたい……  
でも、実際、  
中学、高校の勉強は、  
文章を読んで翻訳する……

英語という課目を勉強する生活が続いた。  
結果として全くしゃべれやしない……  
もどかしくも、哀しい英語の勉強だった。

【 転機と出会う前の日常 ～  
高校生から社会人なりたて 】

<絵>  
さらに  
高校時代に、  
尊敬していた牧師様が、  
問題を起こして失脚した。

しかも、二人も。  
自分が憧れ、尊敬していた人が、  
失敗した……

こうして、  
自分も将来牧師になりたい、  
という素朴な憧れ、夢が破れてしまった。

<絵>  
夢を失うと、勉教できなくなる……

いや、しなくなる……  
結果的に、  
少女マンガばかりを読む日々と  
なってしまった。

さらに、授業をサボっては、  
高校の近くにあった、  
あぶり餅屋で、  
ダラダラとした日々を  
過ごすことになった。

ますます勉強には身が入らない……  
その結果、  
大学受験に、  
立て続けに失敗した。

#### 【 人生の転機 ～ 地獄 】

<絵>  
高校を卒業し、  
一浪する……というのは、  
当時の京都の公立高校の常識だった。  
「ひとなみ」と呼んで、  
一浪は「人並み」だ、と  
うそぶいていた紫野高校時代。

一浪目は  
予備校に通わせてもらった。

駿台予備校で、  
表三郎を始め、  
凄い講師陣に感動した。  
俺は駿台に通っている……  
ということに満足してしまった。

予備校の授業を聞けば、  
分かった気になる。  
でも、  
後で自分で問題を解くと、できない……

<絵>  
気付くと、  
周りの友だちは、  
みんな大学に受かったのに、

自分だけ、全滅してしまった……。

さて、二浪するか、

親父にこう聞いた。

「アメリカにでも行ったら？  
という人がいるんやけれど……」。

すると、

「それは負け犬やな！」  
と一言。

その一言で発憤して、  
自学自習を始めた。  
Z会を受講して、  
自宅浪人を続けた。

<絵>

この孤独な戦いをやり抜けたのは、  
親父の言葉があったからだ。

やっと

大学にも受かり、  
就職もし、  
幸せな結婚もした。  
かわいい子供にも恵まれた。

しかし、

英語がしゃべれない  
この劣等感が邪魔をする。

同志社の英語英文学科卒業。

でも、  
私には常に口にする言葉があった。

「いや、英語のできない英文科  
なんですけれどね……」

誰も、聞いてへん！！ちゅうのに……

これを口にして、  
幸せなはずがない！！  
哀しい思いを抱いていた。

憧れはある。  
でも、できない。  
出来ない自分を  
突き付けられるのが辛いので、  
こうやって逃げていたのだ。

いったい私はどうすれば、  
理想に近づけるのか、  
もう自分を落とすような話はしたくない。  
英文科卒なんですよ。

自信を持って言えるには  
どうしたらいいんだ。  
本気で悩んだ時、  
私の人生を変える  
大きな出来事に遭遇した。

#### 【 人生の転機 ～ 天国 】

<絵>

2013年10月には、  
アジア全域から  
外国人を600名以上招いて、  
京都国際会館のイベントホールに、  
3千人を集め  
エンパワード21全日本大会を実施した。  
その事務局長として働いたのだ。

やり取りは全て英語。  
韓国、中国、香港、台湾、  
フィリピン、タイ、ミャンマー、ベトナム、  
ラオス、シンガポール、カンボジア、  
マレーシア、インドネシアと、  
アジア人とのコミュニケーションは……  
全部英語。

約半年は、  
英語を使い続ける日々だった。  
結果……  
気付いて見ると、  
しゃべれるようになっていた！！

既に、49歳！！  
されど、49歳でも、

しゃべれるようになったら、  
それいいじゃん！！

遂に、  
劣等感から解放された！！

<絵>

しゃべれるようになると、  
外国の方々との  
コミュニケーションが豊かになった。  
今では英語の力で  
中東のUAEに出かけて、  
Dubaiにも、  
現地の方と株式会社を設立して、  
ビジネスを展開することが  
できるようになった。

こうして、  
英語がしゃべれない劣等感が溶けると、  
自分でも驚くほど、  
活動の場が、  
世界へと広がっていった。

<絵>

自分の体験が後押しして、  
そうだ、  
英語が苦手だとか、  
英語がしゃべれない子どもたちを、  
しゃべれるようにしてあげたい！！

将来を創造する子たちを、  
世界に羽ばたけるように、  
手助けがしたい。

そう思うようになったのだ。

【 広げたい価値観 ～ ビジョン 】

<絵>

そんな中で、  
上野英一先生の  
「学びの才能“100%”コーチング」  
に出会った。



私は愕然とした。  
今までは、  
ずっと我流でやってきただった。

しかし、私が目指して来た、  
「Full Potential Coaching」  
「子どもの能力“最大化”コーチング」が、  
どなたに対しても  
ドンドン実現出来る内容だったからだ。

「目から鱗が落ちる！」  
というのは、  
このことだ。

いわば、  
ふるポテチに金棒（鬼に金棒！じゃなくて！）！  
だった！！

#### 【社会的証明】

<絵>

長女は  
社会人を経て、  
フィリピンの神学大学院に行き、  
英語で学んでいる。

長男は、  
高卒後バイト生活から抜け出して、  
フィリピンの大学でビジネスを  
英語で学んでいる。  
大学生ながら  
既にフィリピンの先生を雇って、  
日本人向けの  
オンライン英会話のビジネスを立ち上げた。

<絵>

ただ単に、英語を教える塾、  
英会話を教えるところなど  
他に幾らでもある。  
勉強を教えて、  
定期テストの点を取らせる塾もある。

でも、単に、  
英語を学ぶのではなく、

英語をツールとして、  
手段として、  
いったい何をするのか？が大事だ。

今の私の夢は、  
世界に出て行って仕事をする  
子どもたちの可能性を  
ドンドン広げてあげることだ。

我が子たちにおいては、  
既に現実のものになった。  
今度は、  
あなたのお子さまの番だ！！

<絵>

1番大事なことは、  
どんな夢を実現したいのか？  
である。

その子の夢を実現してこそ、  
子どもの能力“最大化”  
つまりふるポテチが、  
現実になるからだ。

今の私の仕事は、  
あなたのお子さまの  
やる気、  
動機に、  
そして夢の実現に向けて、  
心に！！  
火を点けることである。

【着地点～  
Call To Action（次の行動を促す）】

<絵>

ここまでご覧いただき、  
ありがとうございました。

ここまでご覧戴いたあなたには、  
「ふるポテチ」  
即ち、  
子どもの能力“最大化”する

5ステップの動画をプレゼントします。

特に、お子さまの将来、  
日本はもとより、  
世界を舞台に  
大活躍して欲しいと願う、  
お父さん、お母さんには、  
是非とも受け取って欲しい内容です。

<絵>

ふるポテチ、  
Full Potential Coaching  
子どもの能力“最大化”コーチング  
を是非味わって戴きたいと思います！

極上のポテチを、  
是非とも召し上がれ！！

「プレゼントは、こちらからどうぞ！！」  
(下向き矢印を描いて、  
メルマガへの登録を促します)